

NEWS RELEASE (2020年6月19日13:05リリース)

**新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物を同定
～ オンコリスバイオフーマ株式会社(東京)と臨床開発に向けた
特許譲渡契約を締結 ～**

各位

この度、鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターによる「新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物」を同定しましたのでお知らせします。

【概要】

鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターの馬場昌範センター長、同センター・鹿児島大学キャンパスの岡本実佳准教授、外山政明特任助教の3名からなる研究チームは、同センターに設置されているバイオセーフティーレベル3 (BSL3) 実験施設を用いた研究により、新型コロナウイルス (以下 SARS-CoV-2) の増殖を強く阻害する化合物を同定することに成功しました。

この研究成果に基づいて、本学は2020年5月18日に「抗SARS-CoV-2薬」の発明を特許庁に出願し、更に、当該薬剤の臨床開発に着手するため、2020年6月19日には東京都に本社を置くオンコリスバイオフーマ株式会社 (東証マザーズ: 4588) と特許譲渡契約を締結しました。

【経緯等】

SARS-CoV-2の感染による肺炎 (COVID-19) の世界的蔓延は人類の存在を脅かす重大な脅威となっています。現時点でSARS-CoV-2感染に対するワクチンは存在せず、一刻も早い治療薬の開発が渴望されている中、それまでの間、別の目的で開発された既存の薬剤の中から、COVID-19の治療に転用しようとする動きがあります。しかし、これらの薬剤はSARS-CoV-2に対して必ずしも「最適化」されている訳ではなく、通常の投与量では効果が不十分なことや、副作用の問題などを解決する必要があるため、出来るだけ早くCOVID-19に対する専用の治療薬の発見と開発が求められています。

今回、同センターの抗ウイルス化学療法研究分野では、国立感染症研究所よりSARS-CoV-2の分与を受け、培養細胞を用いた薬剤の試験系を確立するとともに、以前より同研究分野が保有する種々の薬剤について、それらの抗SARS-CoV-2効果について調べていきました。その結果、いくつかの薬剤について、COVID-19治療薬として世界で初めて認可されたギリアド・サイエンシズ社の「レムデシビル」と同等かそれ以上の抗SARS-CoV-2効果を示すことを、培養細胞を用いた同じ系で同時に比較する実験で明らかにしました。

今後は、特許譲渡先であるオンコリスバイオフーマ株式会社が国際特許出願を行うとともに、作用機序の解明、大量合成法の開発、薬物動態試験や安全性試験を実施することで、開発候補化合物の決定を行う予定です。その結果を基に、出来るだけ早期に臨床試験を実施し、COVID-19に対する新規治療薬の開発につなげたいと考えています。
